

確定拠出年金 ニュースレター

DC Pension Plan
Newsletter

Vol.25

発行 / 2022年11月



Contents

- 1 『これからの投資』
—不透明な時代における将来への準備—
あおぞら投信株式会社 取締役会長 柳谷 俊郎 氏
..... P2
- 2 寒くてゾクゾク。値上げも続々。
～食卓のマストアイテムを守る方法～
中野FP事務所 代表 中野 任基 氏
..... P5
- 3 市況レポート 2022年度上期 P9
- 4 推薦図書 「サイコロジー・オブ・マネー」
一生お金に困らない「富」のマインドセット... P13
YouTubeチャンネルご紹介
(SBI証券) P13
- 5 無料ウェブセミナーのご案内 P14
- 6 コールセンターからのお便り P15
- 7 サービスご利用案内について P17

『これからの投資』

— 不透明な時代における将来への準備 —

あおぞら投信株式会社
取締役会長

柳谷 俊郎

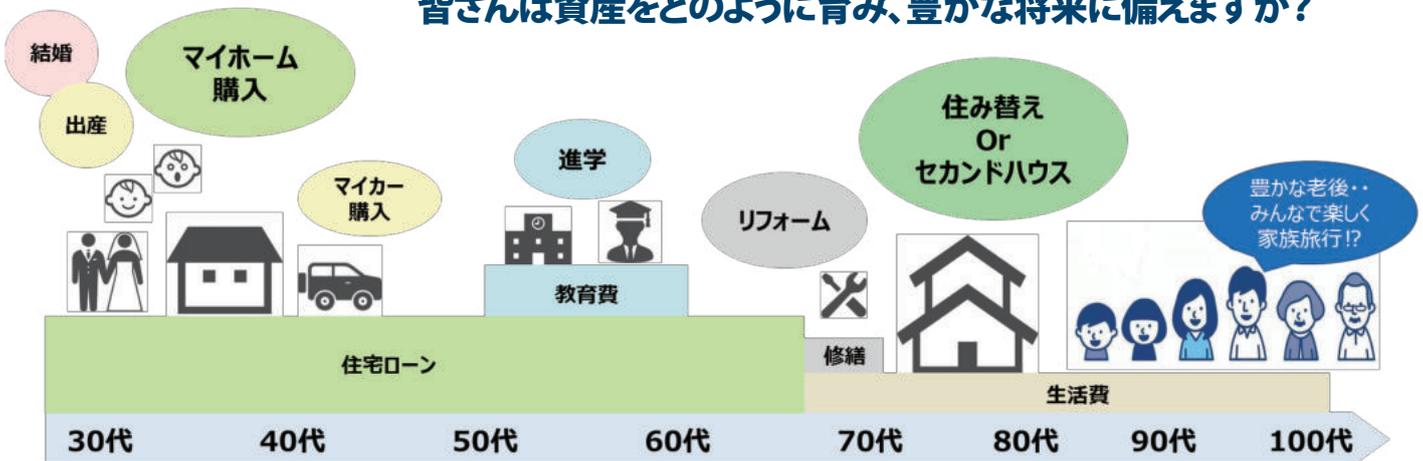


皆さまこんにちは!あおぞら投信の柳谷です。よろしくお願いいたします。

確定拠出年金制度を通じて資産形成に取り組まれる皆さんに『これからの投資』についてお伝えしたいと思います。世界経済は新型コロナウイルスという未曾有の出来事に直面した結果、今までの生活スタイルが変わり、働き方が変わり、考え方も変わりつつあります。さらにウクライナ侵攻のような国際社会を揺るがす出来事も起こっています。このような先行きが見通しにくい中でも経済は動いています。これからの世の中の変化の中で、将来に向けてひとりひとりが準備すべき大切なこととは何なのでしょうか。

皆さまはご自身の将来に向けてお金を積み立てていらっしゃると思います。将来といったときにはどのくらい先の時間を考えられていますか。若い人が、自分が働き始めた時から、いきなり働き終わった後を考えるというのは簡単ではないと思います。働き終わるとは何年後のことなのか?そもそも同じ職場で働き続けるかどうかもわからないなどなど、自分の将来を見通すということ自体が簡単なことではありません。まさにそのことが重要なことなのです。すなわち、自分のやりたいこと、やってみたいこと、人のために役に立つことなど、これからの働き方は変化することが前提なのです。サステナブルな世界となるような働き方が大切だと考える皆さま

人生にはイベントがたくさん! 皆さんは資産をどのように育み、豊かな将来に備えますか?



『これからの投資』— 不透明な時代における将来への準備 —



であればあるほど、様々な選択肢の中で多様な仕事にチャレンジしていくと思います。ぜひそのようになってほしいと思います。

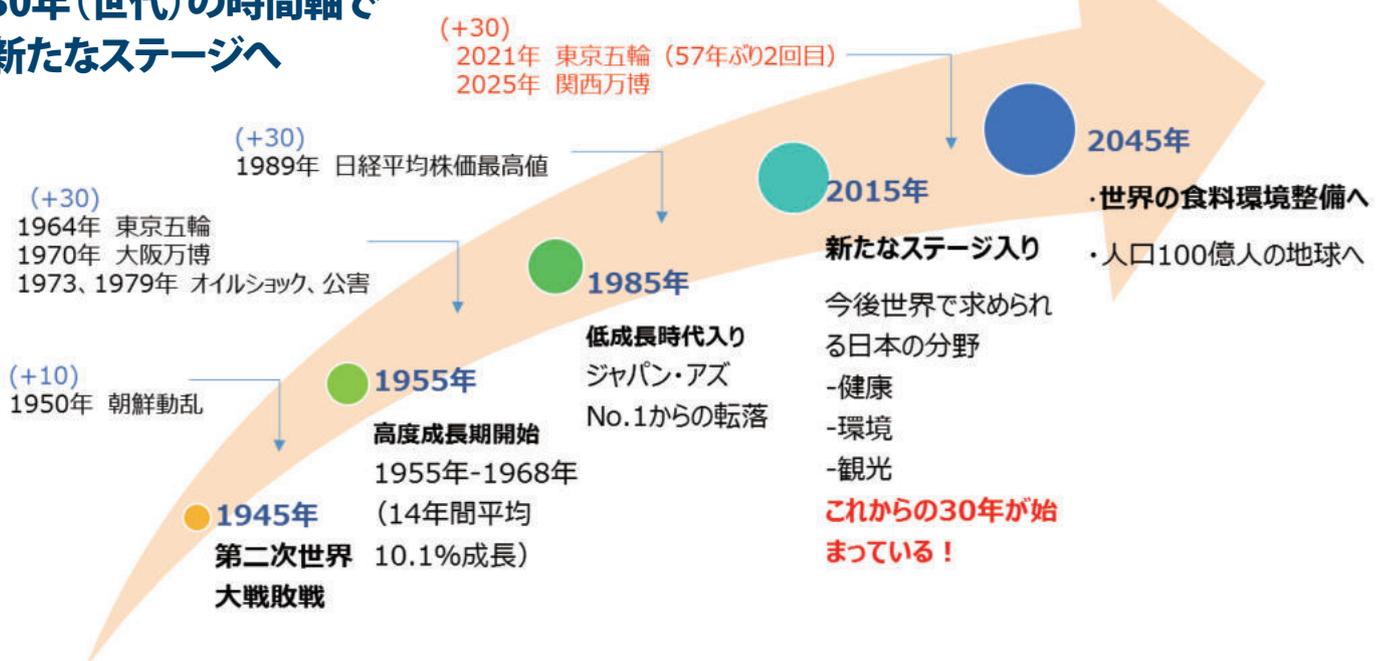
では皆さまのそのような働き方の変化と資産形成についてどのように考えれば良いのでしょうか。

まず身につけていただきたいことは『時間を味方にする』です。なぜならば“投資”とは、皆さまが投資した対象の本質的価値が向上することにより、皆さまがその配当を受け取るということだからです。どういうことかと言うと、“これまでの投資”のイメージは「お金を投じることとは値段が上がるものを買う」と考えてきた方が多かったかと思います。この考え方は「上がるものを当てなくてはならない」という考え方になり、同時に「上がったら当たったので早く利益を得なくてはならない」となりがちです。これでは、投資の原則の1つである“長期投資”と相反することになります。皆さまはご自身が働くとともに、働いて得た一部を将来の

ために準備すること、すなわち今から将来までの時間を活かすことで、投資対象の本質的価値向上によるリターンを得ることを目指す、『これからの投資』を身につけるチャンスなのです。

次に『本質的な価値向上』とはどういうことでしょうか。それは世界の成長を活かすということです。サステナブルな地球を目指して、人類はより良い世界を作ることに様々な形で働いています。皆さまもその一員です。従って皆さまはご自身が働いてお金を得るとともに、自分以外の人々の成長する力を活かすこと、すなわち『お金に働いてもらう』ということをも身につけることが大切です。それは米国を中心とする先進国株式市場をはじめ、これからの経済発展を牽引する新興国も含めて、『世界への分散投資』が重要です。これからの世界の変化は自分たちの想像を超えることが起こっていくでしょう。だからこそ、自分では出来ないことについては『お金に働いてもらう』ことで長期的なリターンを目指す

30年(世代)の時間軸で 新たなステージへ



『これからの投資』— 不透明な時代における将来への準備 —



ことが基本的な考え方になるでしょう。



そうは言っても現在、我々が感じている世界はなかなか先を見ることが難しい時代でもあります。この状況を指してVUCAの時代と言われています。Volatility (変動性), Uncertainty (不確実性), Complexity (複雑性), Ambiguity (不透明性) という時代ですから、備えが必要であるとも言えます。どのような“備え”が必要なのでしょう。『お金に働いてもらおう』という世界への長期・分散投資が1つの“備え”です。さらに大切な備えが『自分自身への投資』です。ご自身

が働くという大切な役割を果たし続けるために、そして将来の様々な変化への対応のために、『自分自身への投資』をしていくことで自分の引き出しという“備え”を作ることは大切です。しかもご自身の“備え”はぜひ使ってよい“備え”です。いざという時は目の前にあるかもしれません。ご自身の力となっている“備え”は使ってはじめて価値が活かされます。そしてまた次の“備え”を身につけていけば良いのだろうと思います。

投資の原則は、長期投資、分散投資、そしてもうひとつが積立投資です。現在の生活を楽しむことと同時に、常に将来のためにも“備え”をすることが大切です。ご自身を磨くという“備え”に加えて、お金についてもコツコツと『継続するは力なり』を実践することで将来への準備が出来るのです。

『ご自身への投資と世界への投資』を続けることで、皆さまが豊かな人生を過ごすことが『これからの投資』の役割だと考えるのです。



柳谷 俊郎 やなぎや としろう

あおぞら投信株式会社
取締役会長

1985年日本債券信用銀行(現:あおぞら銀行) 入行
国際証券部、ロンドン支店、市場証券部などを経て、リテール部門で投資信託の企画・開発に携わる。2014年にあおぞら投信を設立し、代表取締役社長を経て2017年7月より現職。全国でセミナー・講演等行っている。

2022年4月より、全国コミュニティFM番組「週刊Nobbyタイムズ」に第2、第4木曜日に出演。知っておきたい経済のトピックをパーソナリティのDJ Nobby氏と共に解説している。また、訪問先での地元の日本酒と地元の食材をこよなく愛する。週末にはサッカーのシニアリーグでの試合など精力的に活動している。

Profile

寒くてゾクゾク。 値上げも続々。

～食卓のマストアイテムを守る方法～

中野FP事務所 代表 中野 任基

寒いですね。赤道付近で“ラニーニャ現象”が継続しているそうです。体調管理が大変です。

そして。

寒いですね、フトコロが。2022年、食品値上げが家計を直撃しました。家計管理が大変です。

2022年は値上げラッシュの年

今年、実に2万品目を超える食品が値上げされました。そのうち、ピークとなった10月には単月で約6,700品目が一斉に値上げ。ある調査会社の試算では一世帯当たり平均8万円／年の負担増なのだとか。ちなみに私のマストアイテム、マヨネーズも今年2回目の値上げ(去年の値上げを含めると3回目!)。死活問題です…。



「値上げ」はなぜ起きたのか

10月、日本銀行が発表した9月の国内企業物価指数(速報値)は、前年同月比9.7%上昇し(前年を上回るのは19ヵ月連続、図1)、1960年の統計開始以降で最高の116.3(2020年平均=100)となりました。新型コ

図1: 企業物価指数と消費者物価指数の推移



(※)前年同月比。

日本銀行、総務省データを基に中野FP事務所作成。
消費者物価指数は、生鮮食品を除く。

コロナウイルス、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー・原材料の価格高騰、夏場以降の急激な円安が反映した形です。上昇したコストを企業努力で吸収で

寒くてゾクゾク。値上げも続々。～食卓のマストアイテムを守る方法～



きなくなった企業の価格改定(値上げ)が一斉に進んだ結果、2022年は値上げラッシュの年となりました。為替や原油価格の先行き、電気ガス代値上げの影響、物流費、生乳価格の高騰など、動向次第では今後も値上げが行われる可能性があります。

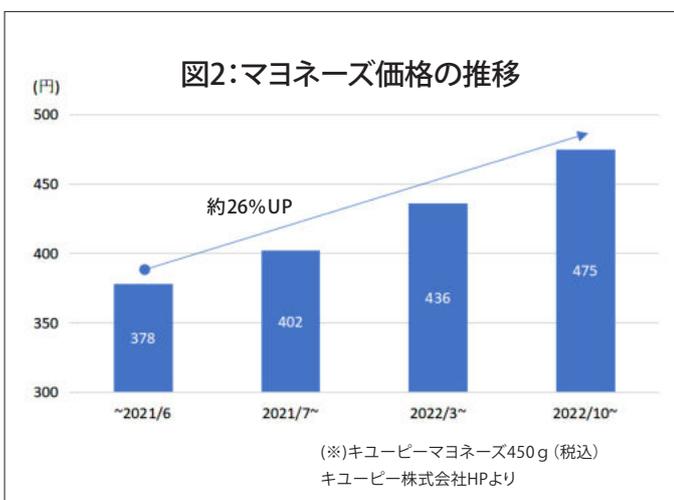
食卓のマヨネーズを守るために

私の食生活においてマヨネーズは必須です。死守しなければなりません。そして私はFP(ファイナンシャル・プランナー)です。考えます!



まず、マヨネーズの価格推移を見てみましょう。(図2) 2021年7月の値上げ前が378円、今年10月の値上げ以降が475円。価格は約26%上昇しています。最も単純な方法として、消費量を約3割減らすことができれば食卓のマヨネーズは死守できる計算になります。でも、3割…無理です。FPっぽくありません。

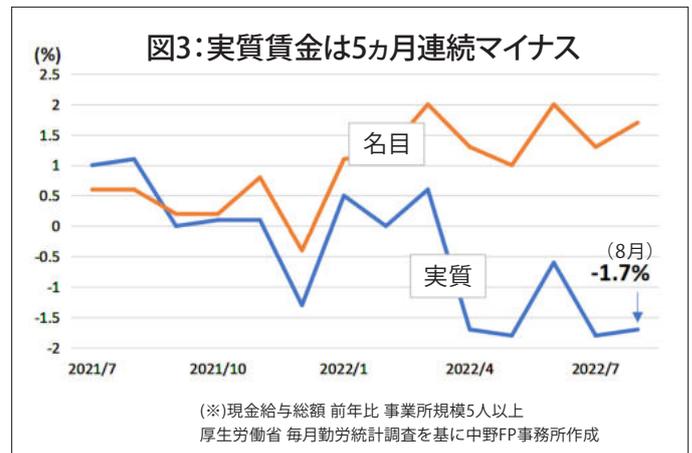
なので別の方法を考えます。条件は、これまでと同じペースで消費しつつ、価格上昇にも対抗する方法。答



えは3つあります。①収入を増やす ②支出を減らす ③運用利回りを上げる。とてもシンプルです。順番に見ていきましょう。

給与増、しかし実質賃金は低下

収入面から見てみましょう。厚生労働省が10月7日に公表した8月の毎月勤労統計(速報)によると、所定内給与などの現金給与総額は前年比が7月より拡大。



金額自体は増えています。ですが実質賃金は前年比1.7%の低下(5カ月連続の減少)。給与総額は拡大しているものの、消費者物価指数の上昇がそれを上回った結果、収入は実質的にマイナスという状況です。(図3)わかりやすく言えば「購買力は低下した(マヨネーズはあきらめろ!)」ということでしょうか。

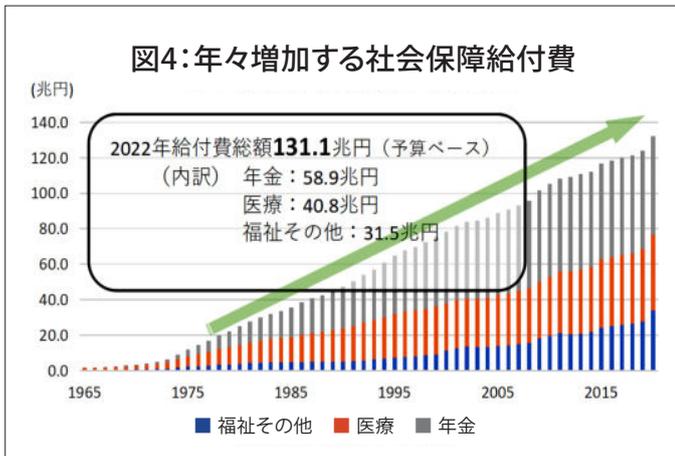


寒くてゾクゾク。値上げも続々。～食卓のマストアイテムを守る方法～



税金・社会保障費の負担増

収入面は期待薄。ならば支出面で何かできることはないのでしょうか。こんなときFPは「家計の固定費を見直してみましよう」なんてアドバイスをします。携帯・インターネット等の通信費、光熱費等々、自助努力で減らせる固定的支出はとにかく減らす。それ自体は間違いではないし、家計の収支改善において一定の効果も期待できます。ですが、私たちには個人の努力では抗えない支出もあります。今後ますます増えるであろう支出、「税・社会保障費」です。年金、医療、介護、子ども・子育てに年間130兆円超のお金が必要なのだとか。(図4) これらを負担するために、税金が上がる、保険料が上がる。収入は実質マイナスなのに支出は不可抗力的に増加…。「マヨネーズ死守」の道のりは遠のきました。



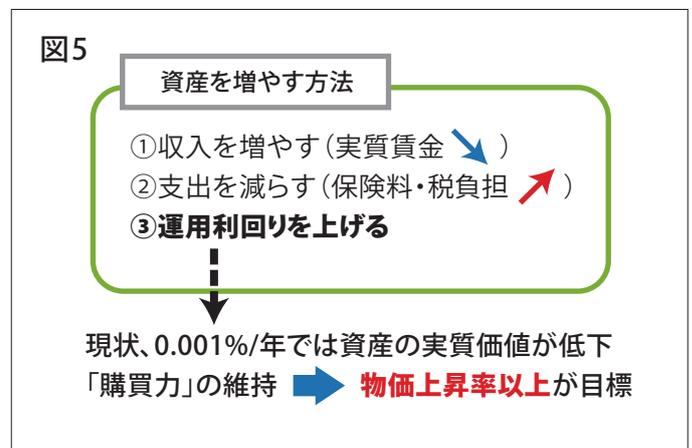
「収入-支出」の減少、リカバリーする方法は

私はFPとして全国の企業・自治体等の資産運用セミナーでお話をさせていただく機会が多いのですが、そ

の際、受講されている皆さまにこのような質問をさせていただきます。

「皆さまはご自身の資産を増やしたいですか、減らしたいですか?」「増やしたい」「いま、銀行の普通預金金利は何パーセントかご存じですか?」「わからない」「ほとんどゼロ」(普通預金金利 0.001%※2022/10/12 現在 三菱UFJ銀行)

「皆さまの保有する金融資産のうち最も残高が多い資産は何ですか?」「預金・貯金」つまり、資産を増やしたいと願う多くの方が、「いくら増えるか分からない」「ほとんど増えない」、もつとて言えば、物価上昇率が預金金利を上回る状況では実質的に金利がマイナスとなる(お金の価値が減少する)金融商品に、大切な資産のうちかなりの部分を振り分けて保有しているのが現状なんです(家計の金融資産残高 2,007兆円、うち現金・預金1,102兆円。※2022年6月末 日本銀行)。繰り返しになりますが、資産を増やす方法は3つ(図5)。①収入を増やす(実質賃金 ↓)、②支出を減らす(保険料・税負担 ↑)、③運用利回りを上げる。つまり「(収入-支出)×運用利回り」です。これまで見てきた通り(収入-支



寒くてゾクゾク。値上げも続々。～食卓のマストアイテムを守る方法～



出)は全体的に縮小傾向。全体として低下した家計の購買力をリカバリーするためには最後の要素、「運用利回り」を引き上げるしかありません。利回りの目標は少なくとも物価上昇率以上。資産価値の減少を防ぎ購買力を維持するための資産運用です。普通預金だけではダメです。金利0.001%では物価上昇率に負けてしまうのです。

ください。大切な資産、目減りしていませんか？

最後に。率先垂範、この原稿を書きながら私も家計・資産運用を見直してみました。ご安心ください。当面の間、我が家の食卓からマヨネーズが消えることはなさそうです！この冬、皆さまが体感もフトコロも、健康で暖かく過ごされることを祈念いたします。

おわりに

今年の値上げラッシュで家計は深刻な影響を受けています。2023年、賃金はアップするのでしょうか？国の年金は増額されるのでしょうか？

1年の締めくくりとして、家計の大掃除(見直し)をしてみてください。資産運用の成果をしっかり確認して



家計の
大掃除を！

Profile



中野 任基 なかの ひでき

中野FP事務所 代表

小学校で子供たちにおこづかい帳の使い方を伝授した数時間後、おじいちゃんおばあちゃんに相続とか終活のお話しをしているFP。

“深刻で”、“難しく”なりがちなお金の話を、身近な題材に置き換えてわかりやすく、笑いを交えて楽しくお伝えする講師として活動中。

生命保険会社勤務を経て独立。家計・資産運用などの個人相談、高校非常勤講師、各種団体のアドバイザー・インストラクター、執筆など、色々。



日本経済

当上半期(2022年4月～2022年9月)の日本経済は回復傾向が続きました。4～6月期は消費や投資の増加を反映して実質成長率は前期比(年率)3.5%増となりました。7～9月期は減速するものの拡大が続くというのが市場の見方(9月現在)になっています。新型コロナウイルスについては8月をピークとする感染第7波到来となりましたが、水際対策緩和を中心に経済活動の再開が続きました。そのため、経済活動が縮小することはなく、生産活動や輸出は増加傾向となりましたが、円安や商品市況高を背景に貿易赤字が増加し、8月には1979年以降で過去最大を記録しました。日本銀行が年4回発表している日銀短観の「業況判断指数」は、全般的な業況の現状と先行きについて「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いて計算されたもので、プラスであれば景気が良い、マイナスであれば景気は悪いと判断します。大企業・全産業の業況判断指数は、3・6・9月と連続3回+11を維持しました。

世界経済

当上半期(2022年4月～2022年9月)の世界経済は、スタグフレーション(景気悪化とインフレの同時進行)の入り口に立たされた状態になりました。ウクライナ・ロシア間の戦争が継続し、世界的な生産供給システムが分断される中、原油価格を中心に商品価格が高騰し、世界的にインフレ高進が進みました。欧米を中心に経済再開が進む中、労働力の供給が不足したこともインフレを加速させました。そうした中、欧米を中心に金融引き締めが本格化し、長短金利が上昇しましたが、インフレ鎮静化には至りませんでした。債券市場では逆イールドが長期化し、市場は不況の到来を予想。9月下旬にはOECD(経済協力開発機構)が世界の成長率見通しを引き下げました。





■ 国内株式

TOPIX (配当込み) 3,003.39 (前下半期末比-4.41%)

当上半期(2022年4月~2022年9月)の国内株式(TOPIX・配当込み)は下落しました。世界的なインフレ高進を背景に、欧米中央銀行の引き締めが本格化する中、米国を中心に海外株式が下落し、それに連れる形で下落しました。債券市場で逆イールドが長期化し、世界経済の悪化が予想されたことも逆風になりました。ただ、新型コロナウイルスからの経済再開が遅れた分、今になって日本の経済成長が下支えされたことや、インフレの程度が海外と比較して鈍ったこと、日経平均の予想EPSが過去最高水準まで増えるなど、企業業績が底堅かった分、外国株式(MSCIコクサイ(配当込み・円ベース))(-5.99%)に対してはアウトパフォームとなりました。

■ 国内債券

NOMURA-BPI 総合 373.60 (前下半期末比-1.95%)

当上半期(2022年4月~2022年9月)の国内債券(NOMURA-BPI総合)は小幅に下落しました。世界的なインフレ高進・金利上昇圧力が影響し、中心となる10年国債利回りが上昇(債券価格は下落)しました。もっとも、急騰した米10年国債利回りと比べ、日本の債券相場下落(金利の上昇)は限定的でした。FRB(米連邦準備制度理事会)の金融引き締め強化でドル高・円安圧力が強まり、インフレ回避を目的に日銀も金融緩和に転じるとの観測が増える場面もあり、日本国債にも売り圧力がかかりました。しかし、日銀は景気回復を重視し、金融緩和を維持する姿勢を変えることはありませんでした。

★TOPIX (配当込み)



★10年国債利回り 単位:%



期間:2022年4月1日~2022年9月30日 出所:ブルームバーグデータをもとにSBI証券が作成。

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。



■ 外国株式

MSCIコクサイ(配当込み・円ベース) 5,183.99 (-5.99%)

当上半期(2022年4月～2022年9月)の外国株式(MSCIコクサイ・配当込み・円ベース)は下落しました。組み入れ比率が最も高い米国株が下げたことが主因とみられます。特にGAFAM(グーグル、アップル、メタプラットフォームズ(旧称:フェイスブック)、アマゾン、マイクロソフト)、テスラ等に象徴される米国で時価総額上位の代表銘柄の下落率が大きくなったことが響いたとみられます。米国で金融引き締めが急ピッチで強化され、金利上昇に弱いグロース株には逆風になりました。ただ、外為市場ではドルが円に対して大きく上昇しており、ドル建て資産としての米国株を下支えする要因となりました。

■ 外国債券

FTSE世界国債インデックス(日本除く・円ベース) 517.84 (+1.0%)

当上半期(2022年4月～2022年9月)の外国債券(FTSE世界国債インデックス(日本除く・円ベース))は小幅上昇しました。欧米を中心に債券利回りは上昇(債券価格は下落)しましたが、ドルやユーロを中心に多くの通貨が対円で上昇したことでプラスを維持しました。

こうした中、世界の長期金利の指標的な存在である米10年国債利回りは大きく上昇(債券価格は大きく下落)しました。同国債は3月末2.33%から9月末は3.82%に上昇しています。期間中、FRBが金融引き締めを積極的に進めましたが、消費者物価の高止まりが続いたため、FRBのタカ派的な姿勢が続きました。ただ、長短金利の逆転現象(逆イールド)が続き、米国をはじめ世界経済の悪化観測が強まってきました。

★MSCIコクサイ(配当込み・円ベース)



★米10年国債利回り 単位:%



期間:2022年4月1日～2022年9月30日 出所:ブルームバーグデータをもとにSBI証券が作成。

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。

市況レポート
2022年度上期

外国為替市場



■ 為替市況

当上半期(2022年4月~2022年9月)のドル・円相場は、急速な円安・ドル高となりました。ロシア・ウクライナの戦争継続もあり、原油・商品価格が上昇したうえ労働市場のひっ迫も続き、米国を中心にインフレ懸念が強まりました。これを受けてFRB(米連邦準備制度理事会)はFOMC(米連邦公開市場委員会)において、5月4日に0.5%、6月15日、7月27日、9月21日に各0.75%政策金利を引き上げました。FRBは景気維持することよりもインフレの鎮静化を優先する姿勢を強め、米10年国債利回りは急上昇し、日米金利差拡大から円安・ドル高となりました。

ロシアからの天然ガス供給が滞ったドイツを中心とする欧州もインフレ懸念が強く、ECB(欧州中銀)も金融引き締めへ転じたことから、円は対ユーロでも下落しました。

(SBI証券 投資情報部)



★ドル・円



★ユーロ・円



期間：2022年4月1日～2022年9月30日 出所：三菱UFJ銀行の対顧客外国為替相場データをもとにSBI証券が作成。

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。

推薦図書



推薦
図書

サイコロジー・オブ・マネー

一生お金に困らない「富」のマインドセット

モーガン・ハウセル(著) 児島修(翻訳) 発行元:ダイヤモンド社/2021年12月発行

著者のモーガン・ハウセル氏は金融のプロフェッショナルでありながら、ウォール・ストリート・ジャーナル紙など大手媒体にファイナンス関連の記事を寄稿する気鋭のコラムニストとしても活躍されています。

2018年に「お金と賢く付き合うための人間心理」をテーマに書いたレポートが大反響を呼び、2021年12月に書籍化されてからは、全世界で累計100万部超のベストセラーとなっています。※2022年10月時点

本書では「お金とうまく付き合うには、頭の良さより行動が大切」という主張に基づいて、お金を増やし裕福になるだけでなく、裕福であり続ける為には「自らがコントロールできる所に目を向ける」ことが重要であると書かれています。

読者が読み進めやすいよう全20章のテーマに分けられている上に、実際の事例など具体的な話も多く交えられているので、単に投資でお金を増やすというだけでなく、お金とうまく付き合うための「行動」に繋がられる一冊となっています。

是非、この機会にご一読ください。



SBI証券

YouTubeチャンネル等ご紹介



ビジネスドライブ! by SBI証券

「ビジネスドライブ!」は、学びとエンターテインメントを融合させ様々な限定コンテンツを発信するSBI証券公式YouTubeチャンネルです。異世界漫画動画、お金の達人の知られざるマイルールを紐解く密着番組のほか、「トレンディエンジェルのペペツと身につくマネー講座」など好評配信中です!

https://go.sbisec.co.jp/lp/lp_bd_20211001.html



公式TikTok、Instagramを開設

「お客さまが必要としている金融情報を手軽に取得できるメディア」をコンセプトに、収入や税金に関する疑問、NISAやiDeCoなどの投資に関する基本的な『お金の話』をお届けしていきます。

TikTok ▶ http://search.sbisec.co.jp/v3/ex/ml_220920sbiwk028287.html

Instagram ▶ http://search.sbisec.co.jp/v3/ex/ml_220920sbiwk028290.html



毎月更新! iDeコラム

<https://go.sbisec.co.jp/prd/ideco/ide-column.html>





無料ウェブセミナーのご案内

加入者向け無料ウェブセミナー（お申込み不要）

- **テーマ：長期・積立・分散投資の重要性**
- **講師：あおぞら投信株式会社 取締役会長 柳谷 俊郎 氏**

FM番組「週刊Nobby タイムズ」にもご出演中！

わかりやすい解説でお馴染みのあおぞら投信会長・柳谷様によるオンラインセミナーを開催します。「お金が働く場所とは？」「資産を育むための資産構成とは？」など、気になる内容が盛りだくさん。先行き不透明な時代を迎えた今こそ、改めてご自身の将来設計について考えてみませんか。

- **視聴方法：下記URLもしくはQRコードからご覧いただけます。**
https://sbibenefit.satori.site/investment_education202211



※お申込みは不要です。

※本Webセミナーは本年10月中旬に事前収録を行ったものとなります。

資料内で使用されているデータ、内容等については収録時点のものとなりますので、予めご了承ください。

※視聴には大量のデータ（パケット）通信が必要となりますので、携帯・通信キャリア各社にて通信料が発生します。ご使用のプランをよくお確かめの上でご視聴ください。

- **視聴可能期間：2022/12/11（日）まで**

※視聴可能期間を経過した後は下記URLからご視聴いただくことはできませんので、ご注意ください。

【講師プロフィール】

1985年日本債券信用銀行（現：あおぞら銀行）入行
国際証券部、ロンドン支店、市場証券部などを経て、リテール部門で投資信託の企画・開発に携わる。2014年にあおぞら投信を設立し、代表取締役社長を経て2017年7月より現職。全国でセミナー・講演等行っている。

2022年4月より、全国コミュニティFM番組「週刊Nobbyタイムズ」に第2、第4木曜日に出演。知っておきたい経済のトピックをパーソナリティのDJ Nobby氏と共に解説している。

また、訪問先での地元の日本酒と地元の食材をこよなく愛する。週末にはサッカーのシニアリーグでの試合など精力的に活動している。





コールセンターからのお便り

<制度改正>企業型DC加入者の iDeCo加入の要件緩和 (2022年10月から)

2022年10月から、これまでiDeCoに加入できなかった企業型DC加入者の方もiDeCoに加入できるようになりました。

- ▶ 右記の①②を満たしていることが要件です。
- ① 掛金(企業型DCの事業主掛金・iDeCo)が毎月拠出であること
 - ② 企業型DCのマッチング拠出(加入者掛金拠出)を利用していないこと
- ▶ iDeCoの掛金額は、各月の企業型DCの事業主掛金額と合算して月額5.5万円(DB等の他制度^{*}にも加入する場合は、月額2.75万円)を超えることはできません。また月額5千円から掛けていただけます。
- ^{*} 確定給付企業年金(DB)、厚生年金基金、私立学校教職員共済制度、石炭鉱業年金基金

	企業型DCのみに加入の場合	企業型DCとDB等の他制度に加入の場合
iDeCoの掛金額	月額5.5万円 ー各月の企業型DCの事業主掛金額 ※iDeCoの拠出限度額の上限は2万円	月額2.75万円 ー各月の企業型DCの事業主掛金額 ※iDeCoの拠出限度額の上限は1.2万円

(例) 企業型DCのみに加入しており
企業型DCの事業主掛金額が3万円の場合 ▶ 月額5.5万円ー3万円=2.5万円
→ iDeCoの掛金額は5千円から2万円まで設定可能。(千円単位)

iDeCoの拠出限度額の確認方法

企業型DCの加入者サイト上でご自身のiDeCo拠出可能見込額をご確認いただくことが可能です。

SBIベネフィット・システムズ企業型DC加入者サイトをご利用の方

「加入者情報」→「DC制度情報」に「iDeCo拠出可能見込額」が表示されておりますのでご参照ください。

URL: https://www.benefit401k.com/customer/RkDCMember/Common/JP_D_BFKLogin.aspx



iDeCo拠出可能見込額(画面イメージ)

掛金の拠出月	勤務先の企業年金制度に基づいた上限額(企業型DCとiDeCoの合計)		
① 掛金の拠出限度額	27,500円	企業型とiDeCoの合計	
② 企業型の拠出額(事業主掛金)	20,000円	拠出予定	マッチング拠出を利用されている方の場合金額が表示されます。
③ 企業型の拠出額(加入者掛金)	0円	拠出予定	
④ ①ー②ー③の金額	7,500円		iDeCoの掛金上限額は企業年金制度の加入状況により異なります。
⑤ iDeCoの拠出限度額	12,000円	iDeCoの掛	
⑥ iDeCo拠出可能見込額	7,000円	④と⑤の小さい方の金額となります(1,000円未満は切捨て)加入者掛金がある方は0円となります	

コールセンターからのお便り



SBIベネフィット・システムズ以外の企業型DC加入者サイトをご利用の方

ご加入中の企業型DC加入者サイトをご参照ください。

iDeCoの拠出可能見込額の表示箇所等に関するご照会はサイト提供元までお願いいたします。

【ご注意】※企業型DC・iDeCoの両方で掛金を拠出している方

企業型DCの掛金額が変更となり、それに伴いiDeCo掛金額を変更する必要がある場合は、事前に変更後の掛金額を確認の上、iDeCoの受付金融機関を通じて速やかに必要な届出を行ってください。

(変更後の掛金額が企業型DCの加入者サイトへ反映するまでには時間を要しますので、反映を待たずにiDeCo側への届出が必要です。)



iDeCoへの加入(掛金拠出)をご希望の場合

▶ 事前にご自身のiDeCoへの加入可否と掛金上限額をご確認ください。

iDeCoを利用中の方(現在「運用指図者」のお立場の方)

ご利用中のiDeCoプランの運営管理機関(受付金融機関)へお申し出ください。

SBI証券iDeCoオリジナルプラン、SBI証券iDeCoセレクトプラン、SBIつみたて個人型年金規約をご利用の方は、それぞれ以下までお申し出ください。

SBI証券iDeCo
 オリジナルプラン
 セレクトプラン

0120-581-214

※平日および土曜日、日曜日(年末年始・祝日を除く)8:00~17:00

※携帯電話からおかけの場合は**03-5562-7560**をご利用ください。

※土曜日、日曜日は新規加入のお問い合わせのみ承ります。

※お問い合わせの際はご加入中のプラン(オリジナルプラン、セレクトプラン)をお伝えください。

SBIつみたて
個人型年金規約
手続仲介者へお問い合わせください。

手続仲介者をご不明な場合は、加入者コード(ID)もしくは基礎年金番号をご用意の上、

SBIベネフィット・システムズ(**0120-652-401** 平日10:00~18:00)へお問い合わせください。

※国際電話等、上記お電話が繋がらない場合は、**03-6435-5522**をご利用ください。

※ご利用中のプランは、加入者サイトへログイン後、左上の表示でご確認いただけます。

(SBIつみたて個人型年金規約は「SBI Benefit Systems」と表示されます。)

iDeCoを利用していない方(新規のご加入をご希望の方)

ご希望のプランを提供しておりますiDeCoの運営管理機関へお申し出ください。

※弊社(SBIベネフィット・システムズ)ではiDeCoの新規受付は行っておりません。

国民年金基金連合会(iDeCoの実施主体)のHPにて運営管理機関一覧の検索が可能です。

<https://www.ideco-koushiki.jp/operations/>



サービスご利用案内について



加入者サイト

<https://www.benefit401k.com/customer/>

加入者サイトから確定拠出年金の資産残高を確認することや、掛金の配分変更やスイッチングをすることができます。ぜひご利用ください。なお、加入者サイトの操作方法等にご不明な点がある場合は、コールセンターへお問い合わせください。

AIチャットボットを用意しました!

加入者サイトに関する疑問点・不明点について365日24時間、チャットボットが自動応答にてお答えします。ぜひご利用ください!!

電話でのお問い合わせ

コールセンターオペレーター対応

皆さまからのお問い合わせに対して、専門のオペレーターによる迅速な対応が可能な体制を整えています。

加入者専用コールセンター

0120-652-401 月曜日～土曜日 10:00～18:00
(祝日、年末年始、弊社指定のメンテナンス日等除く)

※お手元に加入者コードをご準備の上お問い合わせください。

※土曜日は加入者サイトに関するお問い合わせのみのお受付となります。

※国際電話等、お電話が繋がらない場合は **03-6435-5522** までご連絡ください。



■提供される情報は、万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。掲載されている事項は、企業年金等の一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。

■掲載記事・内容をご加入者の方を対象としております。対象者以外の無断転用・転載はお断りいたします。

■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、ご意見等は当資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

■当資料は、確定拠出年金に関する情報等をお知らせする為にSBIベネフィット・システムズ(株)により作成されたものです。

編集後記

英国のエリザベス女王が死去されました。享年96歳。中継された国葬の様子は圧巻で、また非常に秩序立っており、改めて彼女が英国の象徴たる存在であったことを感じさせられるものでした。お亡くなりになる数日前まで公務を行っていたということからも、生涯を国に捧げるというご自身の言葉を全うされたよう感じます。

100歳を超える長寿の祖母が私にもいますが、日々メールを使いこなし、脳トレ本を読み、お口も達者で生き生きと過ごしています。はたして自分が彼女のように年を重ねられるものかとは思いますが、平均寿命と健康寿命の差が

年々縮まってきているというデータがあるように、元気な高齢者が増えてきていることにも納得です。

さて、健康寿命と共に皆さんに意識していただきたいことは「資産寿命を延ばす」ということです。老後の生活資金のベースは多くの方が公的年金になるかと思いますが、資産寿命とは今まで蓄えてきた資産が尽きるまでの期間を指します。豊かな老後を迎えるためには、心身の健康に加え、資産面での不安が少しでも解消されていると安心ですよね。今の自分にできる選択肢の中から、少しずつ準備を心掛けていってもらえたらと思います。(編集部員K)